



ひうひだより

No.12. 2021.2.26

我が家には、びっぴに4年間通った、今中学1年生と、小学5年生の息子がいます。びっぴでの、それぞれの4年間を振り返った時、それは本当に大事な根っこを伸ばす、貴重な時間だったと感じます。

上の息子(以下うた)は、知らない場所や人の中へ、すーっと入っていくという感じではなく、びっぴでも、観察して、長い時間をかけて、慣れていくような、、自分で慣れる前にそこにいる周りの子どもたちにぐいぐい引き込まれて、あとから自分の感情がついてくるようなどんぐり時代だったような気がします。なので、小学校はどうかな…という思いは在園の頃からありました。でも、そんな心配のようなものを、先回りしてはくれないな、びっぴを薄めたくないな、しっかりとここでいろいろ感じて、困ることが起きたら、その時しっかり困ろう、と思っていました。そして、初めて会う人ばかりの小学校へ入学。結論から言うと、とってもしっかり困った6年間でした。学校がどんな感じかわかった1年生の2学期から、本格的に行くことを拒みます。行きたい場所ではなかった、それでも行くということを選択するのは難しかった。行かない選択をしても、うしろめたい自分がいつもどこかにいた.. 学校に通っている人達にはない心の葛藤をたくさんした6年間だったと思います。どうしたらいいのだろう、これでいいのだろうか、、頭ではわかっているつもりのことと、気持ちのいずれに、わたしもたくさん葛藤しました。

下の息子(以下さく)は、兄が学校に行く行かないに付き合って、びっぴの登園時間が10時を過ぎる時期もありました。自分は早く行きたいのに行けない、と怒りつつもどこか静かに見ていたような気がします。おおくりの頃だったか、当時のスタッフに「卒園したら、小学校に行く? うたと一緒に行かないことにする?」と投げかけられます。すると、「おれは行く。」と答えたそうです。時が経って、さくの小学校生活が始まります。行ってみると、学校は嫌だと言います。兄の様子を見ていて、もともとよいイメージはなかったと思いますが、それでも行くのです。友達もできて、毎日通っているけれど、学校は嫌なままでした。

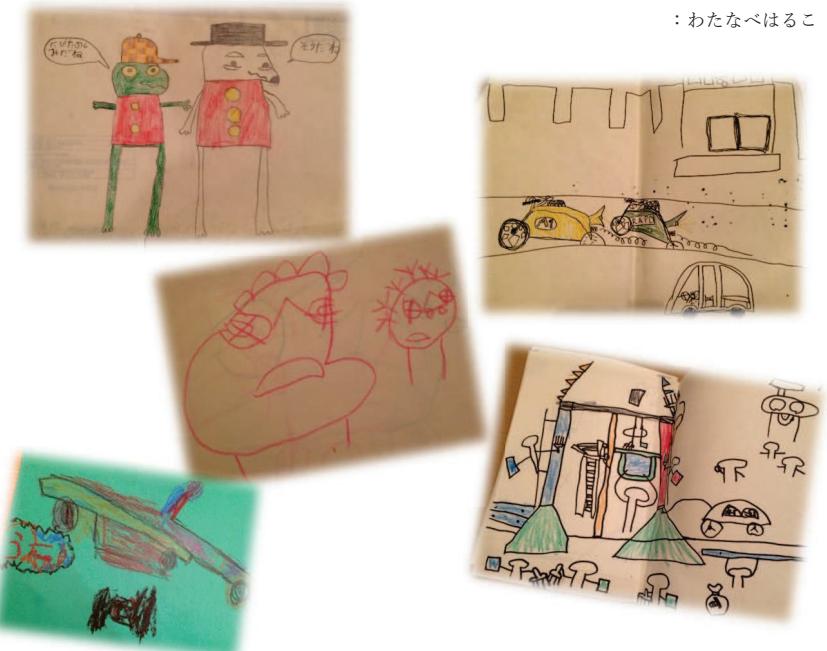
行かないことを選んだ兄と、行くことを選んだ弟。同じ親の子どもでも、本当にそれぞれ違うんだなあと、当たり前のことだけど、親や身近な環境に流されない、その子自身の個性を感じました。

うたの小学校時代、息子も私もたくさん揺れました。それでもなんだかきっとだいじょうぶ、折れることはないってどこかで信じられた。それは、びっぴでの日々の積み重ねが、根っこが大事に作られた時間があると思ったから、な気がしています。
そう思えることがあることが、すごく大いじな、心強さになっていました。これからもまだまた揺れることはあります。でもその揺れも、力にして、根っこの栄養になれたらと願っています。

因みに、うたは、行かないと決めたあとも、キャンプや社会科見学、スキー教室、音楽会、運動会、修学旅行などには自分から参加して、行事の思い出はたくさん持っています。受け止めてくださった先生方やお友達に感謝です。ぼろびっぴやエリンコビッチ(体育クラブ)など、仲間がいて、定期的に行く場所があったのも有り難いことでした。わたしにとってもぼろびっぴやエリンコビッチに行けば会えるスタッフや仲間の存在にどんなに助けられたでしょう... そして今は、葛藤した気持ちを新しい中学生活に向けています。さくは、学校が嫌だと思っている人はほかにもいると思う、その人の気持ちを聴いてみたい、学校で自分が出来ることがあるんじゃないかと言います。

それぞれの根っこを感じる日々です。

:わたなべはるこ



木のみちくさ sketch book 3月

2月も終わりに近づくと「光の春」という言葉の通り、日が長く、そして光が強くなってきたことを感じます。

その頃になると森の木々にも少しずつ変化がおきてきます。ほんの少しずつですが、木の芽が膨く、色も濃んでくるのです。

去年、ひょひょで作ったXmasのオーナメントの入れ物に庭や周辺で見つけた木の芽を飾って、一足早い春を楽しめます。

あいさむの光と室内のあたたかさで、固くとじた冬芽はほくほくと膨くらみ、姿がぐんぐんとかわっていきます。タニコウジイ

は黄色の花を咲かせ、ヤナギのふわふわした白銀のセーターの中に隠されています。

黄緑やえんじの色の花が咲いています。金色のセーターに身を包んだコブシのつぼみの中には純白の花びらが隠されています。ミズキの赤い芽からやわらかく黄緑色の葉が

顔をだします。一見、地味にみえる冬芽たちですが、こうしてみていくと、本当に

ダイナミックに美しく変化していきます。

本当の春はまだ少し先

ですが、こんな早春の

楽しみ方(エレカ)かでして。

